



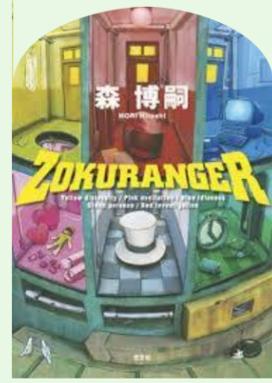
2025年度図書委員会が始まりました。今回の図書好日(図書だよりの名称です)のテーマは「色」ということで様々な色を象徴する本を紹介してもらいました。紹介者が人のような点からその本の色を決めたのか考えながら読んでみて下さい!

2025年度
図書委員会
始動!



J1C 小村薫子 群青色「虚空の旅人」 著:上橋菜穂子
 ヤルターシ海のサンガル王国の新王の即位の儀に招かれた新ヨゴ皇国の皇太子チャグムが、教育係のシュガとともにサンガル王国へ。ところが、めでたいはずのお祝いの席で、新王は、傷つけられ、チャグムたちは、はからずも呪詛と陰謀の中に身を置くこととなる。精霊の守り人シリーズ第4巻。もし精霊の守り人シリーズを知らない人でもファンタジーが好きな人ならハマり間違いなし!! ⚠️読み始めると止まらなくなるため注意⚠️

H2E 安道渉 茶色「あめつちのうた」 著:朝倉宏景
 この小説は甲子園球場のグラウンド整備を行っている阪神園芸に就職した青年の成長物語です。主人公の大地は自分にコンプレックスを抱えています。しかし土と向き合い、仲間と接することで少しずつ自らと向き合えるようになり、プロ意識が芽生えていきます。この本の魅力は段々と静かに感情が盛り上がっていくことを感じられることで、グラウンド整備の方法や奥深さを感じられる点もおすすめです。青春小説とお仕事小説が見事に融合していてとても爽快感に溢れた一冊です。ぜひ手に取ってみてください!



H2G 橋口暖 赤黄青緑桃「ZOKURANGER」 著:森博嗣
 「色」、たとえば5色のスーツを身にまとったスーパー戦隊ですね。ということでスーパー戦隊的な感じの本をご紹介します。主人公はいません(レッドが主役という訳ではない)。本筋は、5人の大学の先生が研究環境改善委員会なるよく分からない委員会に所属し、なぜかスーパー戦隊のようなスーツを着てみんなでバスに乗り、偉い先生に会いに行くというお話。しかし、ほとんどは各先生ごとが語り手となった日々の大学での様子が描かれており、個性的なキャラクターたちのアタマの中をのぞいたような感じで中々面白いです。(金輪際続かない)



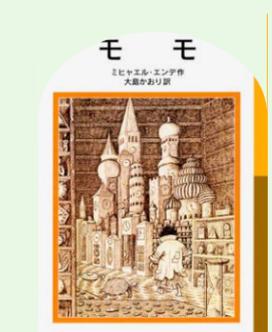
H1C 岸本陸玖 赤色「赤い指」 著:東野圭吾
 家族関係がすっかり冷めきっていたごく普通のサラリーマンの前原昭夫。彼は家に戻りたくないあまり、仕事をわざと遅らせていると、妻の八重子から突然「早く帰ってきてほしい。」と電話がかかってきました。慌てて帰宅すると、そこには庭に横たわる幼女の遺体があって.....? 主人公の加賀恭一郎の大胆な推理や事件に絡み合う前原家の家族関係が魅力です。「家族」の大切さを実感するおすすめの一冊です!!

H1A 村瀬はづき 銀色「銀色の絆」 著:雫井脩介
 フィギュアスケートの厳しい世界を舞台に夢を目指して努力を重ねる高校一年生藤里小織と母・藤里梨津子の絆と日々の葛藤が身に染みて感じられる一冊です。自分を他人と比べてしまうところや、中々自分の気持ちを伝えることができない息苦しさは同年代だからこそ共感する部分があり、小織と重ねられる部分が多くあります。また、母親目線で書かれているため、普段からどれだけ支えてもらっているのかも同時に感じることができます。自分の夢に向かって努力し続ける人にぴったりな本です!!



H2F 大日野栞里 多色「カラフル」 著:森絵都
 「おめでとうございます、抽選に当たりました!」
 主人公は大きな罪を犯した魂で普通なら輪廻のサイクルから外されてしまう...。しかしそんな魂にも抽選で更生できるチャンスを与えられる。偶然当選してしまった主人公は下界にいる誰かの体を借りて生活するいわゆる「ホームステイ」で修業を積むことに。しかしその転生先の高校生:小林真の人生も一筋縄では行かなくて...。前途多難な主人公に感情移入が止まらない一冊です! ガイドである天使のプラプラとの掛け合いにも注目です!

H2B 菅原みつき 灰色「モモ」 著:ミヒヤエル・エンデ
 人間の時間をうばい、影をひそめながら生きる灰色の男たち。時間がなくなった大人たちはすっかり変わり、すべてが効率よくまわる社会と引きかえに、色あせていく日々。この奇妙な事態に気づき立ち上がったのは、人の話を聞く能力をもつ不思議な女の子、モモだった。しかし灰色の影は、モモとその友達にまでも一。
 はたしてモモは、時間どろぼうから時間を取りもどし、平和な日々を取り戻せるのか。そして、モモの存在はわたしたちに何を教えてくれるのか。ずっと忘れたくない不朽の名作、ここにあり!



J2C 井上優太郎 緑色「かえるる」 著:高山ビッキ
 少し梅雨の時期には早いですが、カエルの本を紹介します。この本ではカエル大好きな著者がカエルの基本、生態、歴史、文化、キャラ性などについて幅広く取り上げて(どちらかというと文化やキャラ性重視)書かれています。この本にも書かれていますが、ガチガチの専門書じゃないのでカエルについてゆるく知りたいという人は好きだと思います。また、この本の冒頭に書いてある注意書きも面白くておすすめです。

先生へのインタビュー

J1C 奥田結彩 赤色/ピンク色「ストロベリームーン」 著:芥川なお

この本は恋愛物語の小説(純愛小説)です。
 1人目の主人公の佐藤日向は高校の入学式初日に2人目の主人公、美少女の桜井萌と出会い、なんと同じクラスで、ついには告白され、付き合います。しかし、萌には日向に隠していることがあるみたいで.....?
 この年の6月4日、萌の誕生日には縁結びの効果がある&幸運を呼ぶ月とされている、まるでいちごのように赤い(実際はピンクの)「ストロベリームーン」が見れるということで、6月4日の夜と一緒に見ることにになります。
 キュンキュンするけど最後の方では泣ける&感動する一冊になっています!



高校 2年E組担任で社会科の淵上先生にお話を伺いました。

Q.中高生の頃に最も好きだった本はなんですか?

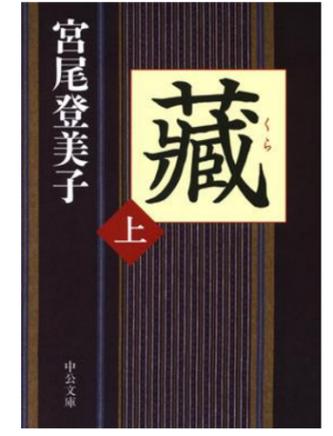
A.宮尾登美子の「藏」です。
 大正時代を舞台とした小説で、酒蔵を継ぐために奮闘する女性の物語です。失敗や逆境にめげずに努力する姿に感銘を受けました。

Q.最近読んだ印象に残っている本はなんですか?

A.高殿円の「上流階級 富久丸百貨店外商部」です。
 主人公は百貨店の外商部で働いていて、主人公の努力が垣間見える点に胸を打たれました。また、外商というあまりかかわる機会のない仕事について知ることができたこともよかったです。

Q.他に最近読んだ印象深い書籍はありますか?

A.最近旅行エッセイなどの旅に関する本をよく読んでいます。例えば近藤史恵の「スーツケースの半分は」などです。



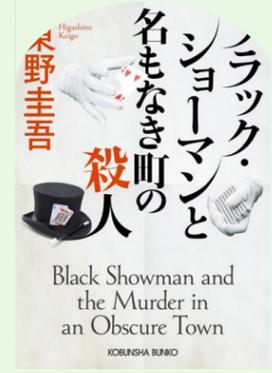
H1G 藤本隆聖 青色「青の炎」 著:貴志祐介

「17歳の完全犯罪」
 「青の炎」は、正義と罪の境界線、そして秀一の純粋さと暴走を描いた、切なくも緊張感あふれる作品です。「青の炎」は、ガスのように高温で静かに燃える青い炎を象徴しています。これは、秀一の静かだが強く激しい決意や怒りを表現しており、彼の内面の激情と冷静な表面との対比にもつながっています。



H1A 北川亜咲 黒色「ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人」 著:東野圭吾

主人公・真世は警察から「父親が殺害された」と連絡を受け、故郷の生家に戻ってきた。そこで彼女が遭遇したのは、長年音信不通だった元マジシャンの叔父・武史。彼は「警察よりも早く事件を解決してやる」と意気込んで、マジシャンならではのトリックを巧みに使い(時には警察官の携帯電話を盗んだり、勝手に現場に入ったりして)、真世と共に自らの手で真相に近づいていくが.....?
 名もなき町に突如として現れた「黒い魔術師」の推理劇に、誰もがアツと言わされること間違いなしの一冊!



J3C 野々村路子 赤色/マスカットグリーン「月」 著:辺見庸

なかなか手に取ることのない本なのでこの機会に紹介したいと思います。
 古今東西どの本でもかつて無いだろうしこれからも無い様な物語。自分と他人の境界線や価値観などを全部根底からひっくり返される様な圧倒的な文字の洪水というか、言葉で言い表すということがどれだけ表面的な一部分なのかを突きつけられるような感じです。物語を読むことで世界が違って見えるとは正にこの本の事なのだろうな...と。手にとって好きな時に少しずつでも、斜に構えていないと読破できそうにないですが(実際2回本前逃亡しました笑)よろしくお願ひします!
 ※本作品はフィクションであり、実在の人物、団体、組織と一切関係ありません



淵上先生、ご協力ありがとうございました。私も最近「深夜特急」という旅行エッセイを読みました。みなさんも今回紹介された書籍で気になったものがあればぜひ手に取ってみてください!

編集部長 H2・安道渉